

「七里御浜防風林GG作戦」を実施しました。

～春の日差しのもと抵抗性クロマツを植栽～

七里御浜国有林で、3月4日（土）、「七里御浜松林を守る協議会」の呼びかけのもと、「2017七里御浜防風林GG作戦」を地域の方々と実施しました。

GGとは、グリーン(松林を守り) グロー(育てる) という意味で、平成5年度から植樹や林内清掃に取り組んでおり、今回で22回目となりました。

七里御浜国有林は、三重県南部の熊野市、御浜町、紀宝町に位置し、熊野灘に面した延長約25kmの海岸防風林で、地域の生活や農作物を海からの強風や潮害、飛砂等から守るため保安林として重要な役割を果たしています。



また、「吉野熊野国立公園」にも指定されており、この他「日本の渚百選」や世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のバッファ地域となっている等、林内や浜辺を散策するなど様々な方々の憩いの場としても親しまれています。

当日は晴天に恵まれ、家族連れを含む約150名の方々が熊野市・御浜町・紀宝町の各会場で、松くい虫の被害に抵抗性があるとされる「抵抗性クロマツ」を井田小学校の生徒が種から育てた苗木を含む総数200本の植樹と、林内の清掃活動を行いました。

植樹では、地元の子どもたちも慣れないスコップを使って、一生懸命に穴を掘り、最後の水やりまで丁寧に抵抗性クロマツ苗を植えてくれました。

「これからこの松が大きくなっていくのを見るのが楽しみです。」「来年も参加して、もっと松を植えたい。」などの声が聞かれ、清掃活動後には、「ゴミ拾いも今日だけでなく、続けてきれいな松林にしていきたい。」「自分だけでなく、ゴミを捨てていた人たちにも松林の大切さを伝えてたい」との意見もありました。

この活動を毎年続けていくことにより、少しずつですが松の回復と、海岸防風林として、また、人々の癒しの空間として七里御浜国有林が地域の中でより親しみを感じ、大切な役割を果たすことができているのだ、ということを実感できた時間となりました。

七里御浜松林を守る協議会とは

七里御浜松林の自然環境の整備等、公益的機能の維持向上を図るため、関係機関の連携を密にするとともに地域住民の協力も得て効果的かつ適切な対策を講じ、七里御浜松林の保全に資することを目的に、所在する紀宝町、御浜町、熊野市と三重県（熊野農林事務所）、環境省（近畿地方環境事務所）、三重森林管理署で構成する協議会。

熊野市会場



御浜町会場



紀宝町会場

